

六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.94
武庫川流域の野生生物調査と
六甲山との関わり / 今西 将行
2011年1月発行



武庫川の溪流

第94回テーマ： 武庫川流域の野生生物調査と 六甲山との関わり

講演内容

- 武庫川流域の調査の今と昔
- 六甲山における自然の変化
- 野生動物をめぐる会の活動の方向

実施日：平成23年1月15日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山地域福祉センター



講師：今西 将行さん
(プロフィール)

1948（昭和23）年、62歳、篠山町出身。
昭和47年兵庫県職員、獣医師。環境問題・
公衆衛生分野で活動。平成20年兵庫県庁
を退職、(財)ひょうご環境創造協会職員。
平成2年野生生物を調査研究する会
を設立し会長、環境省環境カウンセラー。

地域福祉センターの外は吹雪

六甲山上は曇りで-2℃、薄く雪で覆われていました。午前10時7名がガイドハウスに集まり、定例観察調査を行いました。六甲山地域福祉センターへの移動は会員の小室さんの車のお世話になりました。午後、センターの窓からは吹雪模様で、帰り道を心配しつつ講演を楽しみました。

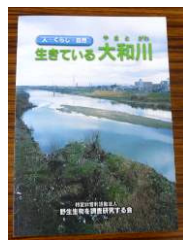
「人・暮らし・自然」がテーマの先駆者

今西さんに市民セミナーの講師をお願いし、今西さんのNPO法人の活動ぶりが、明確なビジョンを持って幅広く展開されていることに目を見張りました。構成員は7名で始めて32名に成長し、7割が教員とのことで、各自が専門性を発揮される仕組みを工夫されています。

3年に1冊の本づくりを目標に掲げて地道な調査を重ねるのが柱で、武庫川・猪名川・揖保川・大和川など特徴的な河川流域の報告書を4種発行し、35000冊を小・中学校に寄贈されました。



生きている武庫川



生きている大和川

また、三田で3haの土地を借りて、里山保全運動にも力を注がれ、平成16年に環境省の里山里山再生保全モデルに指定されています。ブラジルにおける国際協力事業も続けるなど、環境保全活動の先駆者といえます。

武庫川流域調査から六甲山の自然の話

セミナーの冒頭で「野生生物を調査研究する会」の広範囲な活動を紹介され、参加者はその話を聞くだけでも大きな価値があると関心を高めました。

本題として武庫川の調査について、説明されました。①武庫川とは、②武庫川流域の気候、③武庫川の特徴、④武庫川の水質、⑤下流域の川原、⑥武田尾溪谷、⑦三田盆地の流れ、⑧神社、社の林、⑨里山、と項目立て体系的に話されました。

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

河川の流域の自然景観の特徴を理解し、生物の様相を知り、さらに里山における人の暮らしと生き物との共生に目を向けていきました。壮大な自然の絵巻物を示され、見られなくなった希少生物への愛着で思わず声を高められたので、共感しました。



里山活動：ため池の調査

終盤は各論として六甲山の、特徴的な植物やサワガニの調査など、珍しい話を披露されました。

調査・研究主体の広い活動に敬服

「河川流域の調査・研究」が、「人・暮らし・自然」という全体観を育んでいく道になることを実践されていることに、参加者全員が感銘を受けました。環境保全活動のあり方をモデルとして啓示されたようで、学ぶところが大変多く、今後の活動を期待していきたいと思いました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 前田秀二さん

武庫川流域構成の複雑さ及び生物の現状につきまして良く理解できました。配付された資料は簡潔に作成されていますので、より一層理解を深めました。



子供の頃、武庫川河口でよく遊んだ記憶があり、ここ数年来、河口付近から南部橋付近までウォーキングしていますが、河川敷は様変わりですが外見上の河川水の綺麗さは昔と変わらないと感じました。

昨年10月に貴会が発行されています六甲山物語1・2を拝読して想像した通り、セミナーも和やかでした。

【助成金をいただいている機関】

セブンイレブン記念財団、大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金